

# 青少年・市民スポーツ特別委員会資料

(市民スポーツ関係事業の現況について)

平成19年6月15日

市民活力推進局

環境創造局

健康福祉局

# 市民スポーツ関係事業の現況について

## 市民活力推進局

市民活力推進局では、市民一人ひとりが生涯を通じてスポーツを実践することによって、健康で、豊かな生活が送れるよう、生涯スポーツの振興を図るとともに、地域住民のコミュニケーション、自主的活動を促進する場を提供するために、地区センターやスポーツセンター等の運営、整備を進めています。

### 1 市民スポーツの推進

平成18年7月に横浜市スポーツ振興基本計画「いきいきスポーツプラン2010～スポーツで育む地域とくらし～」を、平成22年度までの5ヵ年計画として策定しました。今後は、本計画に基づき、市民スポーツの普及・振興を図っていきます。

#### (1) スポーツ関係団体支援事業

財団法人横浜市体育協会

(平成19年4月1日に財団法人横浜市スポーツ振興事業団と統合)

社団法人横浜市レクリエーション協会

#### (2) スポーツ施設等管理運営事業

横浜国際プールや横浜文化体育館等のスポーツ施設の管理運営や市民利用施設予約システム（スポーツ系）の運営を行います。

##### 【所管施設】

横浜国際プール、横浜文化体育館、平沼記念体育館、横浜みなとみらいスポーツパーク、プール（屋外2カ所・屋内6カ所）、テニスガーデン3カ所

※スポーツセンターは平成18年度から各区役所の所管に変更。

##### 【平成18年度施設利用者数】

	施設数 (19.4.1現在)	利用者数 (施設合計)	1施設あたりの 1日平均利用者数
横浜国際プール	1	825,423人	2,280人
横浜文化体育館	1	394,693人	1,111人
平沼記念体育館	1	134,431人	389人
横浜みなとみらい スポーツパーク	1	165,808人	688人
屋外プール	2	199,289人	1,718人
屋内プール	6	741,325人	370人
テニスガーデン	3	219,857人	228人
スポーツセンター	18	4,539,702人	731人

### (3) スポーツイベント等開催事業

#### ア 各種競技大会への支援

横浜マラソン大会、市民体育大会等の市民参加型イベントや横浜国際女子駅伝等の国際スポーツイベントを開催することで、市民が日常的にスポーツに親しみ、また、接する機会を提供します。

#### 【平成19年度実施予定事業（主な市民参加型イベント）】

事業名称	開催時期等
YOKOHAMA ビーチバレー2007	19年8月3日（金）～5日（日）
市民陸上フェスティバル	19年9月30日（日） ※スーパー陸上2007 ヨコハマサブイベント
スポーツ・レクリエーションフェスティバル	体育の日（10月8日（月・祝））を中心とした期間で実施（詳細未定）
横浜マラソン大会	19年11月11日（日）
よこはまシティウォーク	20年3月20日（木・祝）
市民体育大会	通年（実施34種目）

#### 【平成19年度実施予定事業（国際スポーツイベント）】

大会名称	大会期間
2007 国際ジュニア体操競技大会	19年9月23日（土）、24日（日）
横浜国際女子駅伝競走大会	20年2月24日（日）

#### イ 国際スポーツ交流

上海市・北京市（平成19年度から交流開始予定）・仁川広域市（2002 FIFAワールドカップを契機に交流開始）・台北市（平成17年度から交流開始）の4市とのスポーツ交流を予定しています。

#### ウ 横浜熱闘倶楽部

地元プロスポーツチームを支援する「横浜熱闘倶楽部」による市民との交流事業を行います。

事業：市民招待事業、学校訪問授業、横浜ベイスターズ野球教室、横浜F・マリノスふれあいサッカープロジェクト、横浜FCホームタウンプロジェクト等

(4) 市民スポーツ振興事業

ア 総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援

複数の種目が用意されており、子どもから高齢者まで地域住民の誰もが参加できる自主運営の「総合型地域スポーツクラブ」の設立及び育成を支援します。

【横浜市の総合型地域スポーツクラブ】

	区	クラブ名称
設立済 (12)	神奈川	かながわクラブ
		はざわクラブ
		横浜かもめ anima クラブ
	中	NPO 法人横浜スポーツアンドカルチャークラブ
		FC ゴールスポーツクラブ
	南	弘明寺くらぶ
	旭	若葉台スポーツ・文化クラブ
	金沢	横濱ラグビーアカデミー
		金沢スポーツクラブ
	緑	やましたスポーツ・文化クラブ
戸塚	クローバースポーツクラブ	
栄	さかえスポーツくらぶ	
準備中 (1)	都筑	都筑スポーツランナー 竹の子会

イ 指導者養成事業

横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座 等

講座：市民健康・体力づくり指導者、野外活動指導者、レクリエーション活動支援者、地域クラブ・アシスタント、競技指導者

ウ ヨコハマさわやかスポーツの普及

普及種目：ディスクゴルフ、インディアカ、バウンドテニス、ファジーテニス、グラウンドゴルフ、ペタンク、チュックボール、シャフルボード、ソフトバレーボール、輪投げ、ドッジビー（11種目）

エ 横浜市スポーツ振興審議会

第21期横浜市スポーツ振興審議会を7月頃から開催します。（会期：2年）

(5) 開港150周年関連事業

「2009年世界卓球選手権横浜大会」及び「2009横浜国際トライアスロン大会（仮称）」の開催準備を進めます。

【2009年世界卓球選手権横浜大会概要】

項目	内容
開催時期	2009年4月28日（火）～5月5日（火）（8日間）
会場	横浜アリーナ
参加予定選手数	800人
参加予定協会数	150協会（国際卓球連盟加盟協会：204協会）
種目	男女シングルス、男女ダブルス、混合ダブルス

【2009横浜国際トライアスロン大会（仮称）概要】

	世界子どもスポーツ サミット in 横浜	世界キッズ トライアスロン選手権	2009横浜国際 トライアスロン大会
開催予定時期	2009年8月21日（金）	2009年8月22日（土）	2009年8月23日（日）
会場	検討中	山下公園及び関内周辺地区	
対象者	小中学生（6～15歳）	小中学生（6～15歳）	16歳以上
参加予定者数	500人	500人	100人（男子50人、女子50人）
参加予定国数	20～60カ国	20～60カ国	未定
内容	環境問題を中心に検討	<u>6～9歳</u> スイム：100m バイク：5km ラン：1km <u>9～12歳</u> スイム：150m バイク：10km ラン：2km <u>12～15歳</u> スイム：200m バイク：15km ラン：3km	スイム：1.5km バイク：40km ラン：10km

## 2 地区センター整備運営事業

幼児からお年寄りまで幅広い世代が、文化・スポーツ・レクリエーション活動・学習等を通じた自主的な活動や交流により、地域コミュニティを醸成する拠点として整備を進めています。

体育室、レクリエーションホールは、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、健康体操等さまざまなスポーツ活動に利用されています。

【整備予定数 81館】

【設置数 80館（平成19年6月1日現在）】

【利用者数（平成18年度、80館での実績）】

利用者数	1館あたりの1日平均利用者数
7,595,273人 （うち体育室・レクリエーションホール等の利用者数）	279人 （うち体育室・レクリエーションホール等の利用者数）
2,297,766人	84人

## 3 スポーツ会館運営事業

高速道路等の高架下を有効に活用し、スポーツを通じた地域での交流を図る場となっています。

卓球、テニス、バドミントン、バレーボール等に利用されています。

【設置数 11館】

【利用者数（平成18年度）】

利用者数	1館あたりの1日平均利用者数
226,581人	60人

# 市民スポーツ関係事業の現況について

環境創造局

近年、急速な高齢化の進展にともない、健康的な生活への関心が高まるとともに、子どもの体力が長期的に低下しているなどの傾向が指摘されていることから、誰もが身近な場所で気軽にスポーツができる環境の整備が求められています。

公園整備事業における運動施設は、屋外の緑豊かな環境のもとで、スポーツを楽しむことが大きな魅力となっており、身近な健康づくりから本格的な競技レベルまで、公園の規模や利用目的等に応じて多様な要望に応えるため、自然環境等と調和させながら整備を進めております。

## 1 公園のスポーツ施設の現況

### (1) 公園内のスポーツ施設

平成 19 年 4 月 1 日現在、177 公園に 11 種類、247 のスポーツ施設を設置しています。

施設の種類	数	備考
野球場	55	硬式野球場 2、軟式野球場 19、少年野球場 34
テニスコート	34	138 面
プール	30	
弓道場	5	
陸上競技場	4	公認陸上競技場 3、補助陸上競技場 1
球技場	3	サッカー・ラグビー場
馬術練習場	1	
体育館	1	
運動系広場	114	利用形態・利用方法の違いにより3種類に区別
運動広場	(8)	一定の規模を持ち、団体の専用利用の有料施設
多目的運動広場	(6)	通常は自由利用だが、市に申請し、団体の専用利用(有料)ができる施設
多目的広場	(100)	通常は自由利用だが、管理運営委員会が利用調整し、団体の専用利用のできる施設 ( )数値は、運動系広場の内数
計 11種	247	

(2) 本格的なスポーツ施設を2種類以上備えた公園

多様なスポーツ需要に応えるため、運動広場、テニスコート等の本格的なスポーツ施設を2種類以上備えた公園を、各区に1か所以上設置してまいります。

平成19年4月1日現在、17区に23公園を設置しています。

公園名	所在区	主なスポーツ施設
入船公園	鶴見区	野球場、テニスコート4面
潮田公園	鶴見区	野球場、テニスコート3面、プール
三ツ沢公園	神奈川区	野球場、テニスコート18面、陸上競技場、補助陸上競技場、球技場、馬術練習場、平沼記念体育館
岡野公園	西区	野球場、プール
本牧市民公園	中区	運動広場、テニスコート8面
元町公園	中区	プール、弓道場
清水ヶ丘公園	南区	運動広場、テニスコート6面、屋内プール、体育館
日野中央公園	港南区	野球場、テニスコート4面
常盤公園	保土ヶ谷区	運動広場、テニスコート2面、弓道場
今川公園	旭区	野球場、テニスコート4面
新杉田公園	磯子区	野球場、テニスコート4面
岡村公園	磯子区	野球場、テニスコート6面
長浜公園	金沢区	野球場、球技場、テニスコート6面
富岡西公園	金沢区	野球場、テニスコート4面
新横浜公園	港北区	日産スタジアム、日産フィールド小机、日産ウォーターパーク、野球場、運動広場2面
岸根公園	港北区	野球場、県立武道館
長坂谷公園	緑区	野球場、球技場、テニスコート9面
都田公園	都筑区	運動広場、テニスコート5面
小雀公園	戸塚区	運動広場、テニスコート4面
東俣野中央公園	戸塚区	運動広場、テニスコート4面
金井公園	栄区	野球場、テニスコート4面
中田中央公園	泉区	野球場
瀬谷本郷公園	瀬谷区	野球場、テニスコート6面
合計 23公園	(17区)	

## 2 公園のスポーツ施設の利用者数（平成18年度）

施設名	平成18年度 利用者数
野球場（横浜スタジアムを除く）	26万7千人
横浜スタジアム	29万9千人
日産スタジアム	19万7千人
三ツ沢球技場	5万5千人
長坂谷球技場	8千人
プール（日産ウォーターパークを除く）	41万2千人
日産ウォーターパーク	20万8千人
テニスコート	69万0千人
その他（弓道場、運動広場等）	28万9千人
計	242万5千人

（有料のスポーツ施設を対象に算出）

施設名	平成18年度 観客数
横浜スタジアム	129万1千人
プロ野球公式戦（68試合）	107万8千人
その他イベント（15日）	21万3千人
三ツ沢球技場 サッカー公式戦（27試合）	16万2千人
日産スタジアム	93万9千人
サッカー公式戦（24試合）	66万3千人
その他イベント（11日）	27万6千人
計	239万2千人

[参考] 有料興行の観客数

### 3 新設整備事業

(1) 本格的なスポーツ施設を2種類以上備えた公園の整備

#### ア 新横浜公園（運動公園）

所在地	港北区小机町
計画面積	70.4 ha
主なスポーツ施設 (下線の施設は供用済)	<u>日産スタジアム</u> <u>日産フィールド小机</u> <u>野球場</u> <u>運動広場</u> <u>投てき練習場</u> <u>スケボー広場</u> <u>フットボールパーク</u> <u>日産ウォーターパーク</u> テニスコート 草地広場 ニュースポーツ*広場
整備期間	平成4～22年度
19年度整備内容	テニスコート整備、及びニュースポーツエリアの基盤整備等

※ 「ニュースポーツ」とはスケートボードやインラインスケート、BMX（Bicycle Moto Xrossの略）などのスポーツを指しています。

#### イ 瀬谷本郷公園（地区公園）

所在地	瀬谷区本郷
計画面積	5.6 ha
主なスポーツ施設 (下線の施設は供用済)	<u>野球場</u> <u>球技場</u> <u>テニスコート</u>
整備期間	平成10～20年度
19年度事業内容	アプローチ道路、外周道路の設計

#### ウ 中田中央公園（地区公園）

所在地	泉区中田町
計画面積	4.9 ha
主なスポーツ施設 (下線の施設は供用済)	<u>野球場</u> <u>球技場</u>
整備期間	平成10～20年度
19年度事業内容	球技場等の設計

### エ (仮称)谷本公園 (地区公園)

所在地	青葉区下谷本町
計画面積	4.8 ha
主なスポーツ施設	野球場 球技場 ニュースポーツ広場
整備期間	平成 13～23 年度
19 年度整備内容	基盤整備等、球技場等

#### (2) その他のスポーツ施設を備えた公園の整備

身近なスポーツや地域イベントができる多目的広場等を整備します。

### ア 玄海田公園 (総合公園)

所在地	緑区長津田みなみ台
計画面積	17.3 ha
主なスポーツ施設	運動広場 ニュースポーツ広場
整備期間	平成 14～23 年度
19 年度整備内容	レストハウスおよび周辺広場

### イ 俣野公園 (総合公園)

所在地	戸塚区俣野町
計画面積	11.1 ha
主なスポーツ施設 (下線の施設は供用済)	野球場 <u>多目的広場</u>
整備期間	平成 15～19 年度
19 年度整備内容	野球場グラウンド、防球ネット、エントランス広場等

# 市民スポーツ関係事業の現況について

健康福祉局

健康福祉局では、障害者スポーツの中核拠点として「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」を設置し、障害者のスポーツ、レクリエーション、文化活動等を通じて、障害者の健康づくりと社会参加の促進、障害の有無を越えた市民相互の交流を図っています。

## 1 「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」の概要

### (1) 施設概要

所在地	横浜市港北区鳥山町1752番地
敷地面積	16,256.96 m <sup>2</sup>
施設延床面積	28,817.74 m <sup>2</sup>
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造（地上3階、地下1階）
事業内容	1 施設運営事業 2 障害者スポーツ振興事業 3 文化振興事業 4 聴覚障害者情報提供事業
施設内容	1 スポーツ施設 大体育館、小体育館、プール、フィットネスルーム、グラウンド、ボウリングルーム等 2 文化施設 ラポールシアター（ホール）、ラポールボックス（多目的室）、大・小会議室、和室、ラポール座（視聴覚室）等 3 その他 創作工房、視聴覚ライブラリー、おもちゃ図書館、健康相談コーナー、団体交流ゾーン等
開館時間	平日 午前9時半～午後9時 日曜及び祝日 午前9時半～午後5時

### (2) 利用状況

（平成18年度実績）

開館日数：345日 施設利用者：434,461人 1日平均1,259人

## 2 障害者スポーツ振興事業

障害者の生活の質的向上を図るため、機能回復訓練の一環として行われる「リハビリテーションスポーツ」を中心に、各種教室の開催や個別指導、障害者のスポーツ活動を支える指導者やボランティアなどの人材の育成、各種地域施設・機関と連携した障害者スポーツ環境づくりなどを実施しています。

※（ ）内は平成18年度の実施回数と延べ参加者数。人材養成研修は修了者数。

(1) リハビリテーションスポーツ事業

障害者の障害状況に応じて、各種相談やリハビリテーションスポーツ教室を開催しているほか、医療機関との連携による体力診断等を実施しています。

ア スポーツ、体力づくり、栄養、医事等に関する相談

- ・個別相談 (630 人)

イ リハビリテーションスポーツ指導

- ・成人教室 (40 回 484 人)
- ・学齢教室 (25 回 154 人)
- ・高次脳機能障害教室 (12 回 76 人)
- ・個別指導 (907 人)

ウ 体力診断等

- ・体力診断 (2 回 135 人)
- ・健康栄養教室 (22 回 135 人)

(2) スポーツ・レクリエーション事業

生涯を通じたスポーツ活動の定着を図るため、スポーツ・レクリエーション教室や、指導者・ボランティアの養成研修を実施しています。

ア スポーツ・レクリエーション教室

- ・卓球教室 2 クラス (69 回 1,061 人)
- ・水泳教室 5 クラス (110 回 1,679 人)
- ・ジュニアダンス教室 (28 回 285 人)
- ・アウトドアスポーツ教室 (1 回 51 人)
- ・ジュニアサッカー教室 (42 回 990 人)

イ 人材養成研修

- ・障害者スポーツ指導員養成研修会 (2 回 58 人)
- ・障害者スポーツボランティア養成研修会 (2 回 41 人)
- ・障害者スポーツボランティア交流研修会 (1 回 17 人)
- ・フォローアップ研修会 (2 回 53 人)
- ・種目別研修会 (2 回 62 人)

(3) スポーツ交流イベント事業

障害者の社会参加と市民相互の交流を促進するため、スポーツフェスタのほか、定期リーグ戦や記録会を実施しています。

ア スポーツフェスタ

- ・水泳 (1 回 419 人)    ・ボッチャ (1 回 77 人)    ・ボウリング (2 回 119 人)

イ 定期リーグ戦・記録会

- ・卓球リーグ (13 回 416 人)    ・ボッチャリーグ (9 回 255 人)
- ・フライングディスク記録会 (5 回 148 人)

(4) 地域支援事業

障害者が、地域の身近な施設でスポーツ等が行えるよう、市内各所でスポーツ教室を開催するとともに、地域で活動する自主活動グループへの支援等を行っています。

- ・スポーツ教室 (177回 2689人)
- ・障害者スポーツ体験 (3回 387人)
- ・その他の指導 (13回 405人)
- ・研修等 (12回 196人)

3 障害者スポーツ大会

障害者スポーツの振興及び競技力向上を目的として、横浜市障害者スポーツ大会「ハマピック」を開催しています。また、この競技結果に基づいて全国障害者スポーツ大会の出場選手を選考し、派遣しています。

(1) 第12回横浜市障害者スポーツ大会「ハマピック」開催日程 (一部予定)

	競技名	開催日	会場
個人 競技	水泳・卓球 (サウンド・テーブルテニス は別日程)	平成19年4月22日	横浜ラポール
	フライングディスク	平成19年4月29日	横浜ラポール
	陸上競技	平成19年5月6日	三ツ沢公園陸上競技
	アーチェリー・サウンドテ ブルテニス・ボウリング	平成19年5月13日	横浜ラポール
団体 競技	バスケットボール	平成19年7月1日、 7月8日	横浜ラポール
	ソフトボール	平成19年10月28日	岸根公園野球場
	バレーボール	平成19年11月25日	横浜ラポール
	サッカー	平成19年12月10日	未定 (調整中)

(2) 第7回全国障害者スポーツ大会

- ・開催地：秋田県
- ・開催期間：平成19年10月13日 (土) ~ 15日 (月)
- ・派遣選手団：選手39人 役員38人 合計77人 (予定)

	競技名	身体障害者	知的障害者	計
個人 競技	陸上	5	10	15
	水泳	4	6	10
	卓球	2	2	4
	卓球 (サウンド・テーブルテニス)	1		1
	フライングディスク	2	3	5
	ボウリング		4	4
	計	14	25	39

横浜市スポーツ振興基本計画

# いきいきスポーツプラン2010

～スポーツで育む地域とくらし～

Sports

Community

Life

「いきいきスポーツプラン2010～スポーツで育む地域とくらし～」は  
横浜市のスポーツ振興基本計画です。

この計画は、スポーツを通じて、子どもから高齢者まですべての市民  
がいきいきとした生活を送るとともに、地域住民の交流や心豊かなくらし  
を育むことを目指しています。

# スポーツ振興のビジョン 1

## 新たな生涯スポーツ振興のしくみづくり

スポーツをめぐる社会状況は大きく変化しています。そして、スポーツが持つ社会的意義はさらに大きく変化しています。

少子高齢化の進展により日本社会全体が成熟期を迎えています。学校・企業・行政を中心としたこれまでのスポーツ振興システムは、子どもや生産年齢世代が人口の多数を占め、行政による画一的なサービスが必要とされる時代では有効なシステムでした。

しかし、これからは違います。学校や企業ではカバーできない世代が急激に増加しています。しかも、この世代は行政の従来型の画一的なサービスに満足することはないでしょう。

地域社会も様々な問題を抱えています。防犯、防災、高齢者介護、青少年の健全育成、障害者の社会参加、環境保全等で、地域の課題解決力が試されています。核家族化、高齢単身世帯の増加、近隣とのつきあいが希薄になりがちな地域社会の中で、住民の交流を促進しコミュニケーションを深める具体的な「手段」が必要とされています。

スポーツは、その実践者に「楽しさ」「喜び」「達成感」等をもたらし、一緒にスポーツをすることにより「仲間意識」や「連帯意識」が醸成されることはよく知られています。

また、大規模スポーツイベントの誘致・開催は、スポーツ実践者の拡大にとどまらず、観戦・応援やボランティアとしてイベントを支える機会を通じて、人々の一体感の醸成にもつながります。

スポーツは、従来の身体的効果、教育的効果に加えて、社会的効果つまり地域におけるコミュニティ形成効果まで期待されるようになってきているのです。

このような状況を踏まえると、これからは、競技スポーツの振興に加えて、住民が主体となった地域における新たな生涯スポーツ振興のしくみづくりが求められます。

(財)横浜市体育協会を中心としたスポーツ団体は、これまでの競技スポーツの普及活動の中で培ってきたノウハウを活かし、地域の生涯スポーツ活動を様々な面から支援していくことがより一層必要となります。

このため、(財)横浜市体育協会と(財)横浜市スポーツ振興事業団の統合を早期に進め、生涯スポーツ振興の「新たなしくみ」を実現します。

この「しくみづくり」に対し、(社)横浜市レクリエーション協会、体育指導委員、学校関係者、NPO、企業などが協働して生涯スポーツを振興します。

## 生涯スポーツ社会を実現するための5つの目標

目標1

スポーツを全くしない成人を15%減らします

市民の1年間全くスポーツ・運動をしない割合は約40%です。非実施率を15%減少させるとともに、国の目標である週1回以上の実施率50%に近づけていきます。

目標2

元気高齢者の割合を80%に維持します

高齢者約60万人のうち79.4%が元気高齢者ですが、今後急激に高齢者年代が増加します。介護予防事業とも連携し、現水準を維持します。

目標3

小中学生の新体力テストで全種目全国平均を上回ります

現在は全ての種目で全国平均を下回っています。新体力テストの実施校を拡大しながら、全国平均値を目標に体力の向上を図ります。

目標4

競技力向上に取り組み、全市立中学校運動部に専門的指導者を配置します

競技スポーツ振興のため、ジュニア層の競技力向上に取り組みます。また、顧問教員への研修を充実する一方、競技団体、大学等の協力を得て専門的指導者を配置します。

目標5

総合型地域スポーツクラブを18区に最低1カ所以上育成します

現在4クラブが設立済み、11クラブが設立準備中です。今後も文部科学省の委嘱事業を活用して設立を進める一方、設立時やその後の運営を支援するしくみをつくります。

# スポーツ振興のビジョン 2

## 横浜を生涯スポーツ社会にかえる24の戦略プロジェクト



### スポーツ環境の整備

スポーツ施設(武道館等)の整備検討など、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりに取り組みます。

**目標  
1**
**スポーツを全くしない成人を15%減らします**
**戦略プロジェクト1**
**●総合型地域スポーツ  
クラブの育成**

スポーツ実施率を向上するための最重要施策として、これまでスポーツ・運動への参加機会が得られなかった人たちに、身近な場所で運動ができる機会を提供するために、総合型地域スポーツクラブを育成します。

**戦略プロジェクト2**
**●各区スポーツセンター  
等の利用促進**

現行の利用時間を早朝及び深夜まで拡大することにより、これまで時間的にスポーツセンター等の利用ができなかった人へスポーツ・運動の場を提供し、利用者数を増加します。また、未就学児やその親などを対象とした教室を充実するとともに、参加しやすい環境づくり（託児サービス等）を進めます。

**戦略プロジェクト3**
**●スポーツに関するPR  
活動等の強化**

マスメディア、インターネット等の媒体を効果的に組み合わせ、スポーツ実施に関する呼びかけや関心を深めるためのPR活動等を強化します。また、市内のスポーツ施設情報の一元化により、スポーツ施設の空き状況を把握しやすくし、施設の効率的利用を促進します。

**戦略プロジェクト4**
**●スポーツに関する  
ノーマライゼーション  
の促進**

障害者のスポーツ活動が、障害者関連団体と地域団体との交流・連携のもと、身近な地域で行える体制づくりを支援します。競技ルールや器具の工夫により、様々な競技を、障害者を含めた誰もが一緒に行える環境づくりを促進します。

**目標  
2**
**元気高齢者の割合を80%に維持します**

※元気高齢者…65歳以上で要介護・要支援認定を受けている方及びそのおそれのある方を除いた方

**戦略プロジェクト5**
**●総合型地域スポーツ  
クラブの活用**

総合型地域スポーツクラブを活用し、高齢者に身近な地域でスポーツ実施機会を提供します。また、世代を超えて参加できるヨコハマさわやかスポーツ（ニュースポーツ）を、総合型地域スポーツクラブと連携して普及し実施者を増加します。

**戦略プロジェクト6**
**●ウォーキングコースの  
選定**

横浜開港150周年を契機に、市内の歴史を学ぶことができるウォーキングコースを市内全域に選定します。また、マップの作成配布のほか、参加者のインターネット上での交流などを通して、ウォーキング人口の拡大を目指します。

## 戦略プロジェクト7

### ●高齢者の健康づくり 事業の拡充

高齢者向けのスポーツ振興事業として、専門指導者の育成及び教室事業等を充実するほか、運動遊具の設置された公園での運動プログラムの紹介などを通して、一人でもできる運動の普及を目指します。

## 戦略プロジェクト8

### ●虚弱高齢者に対する 介護予防

介護予防体操教室や転倒骨折予防教室を開催し、要介護認定状態への進行防止、更には元気高齢者への改善を目指します。また、より身近な地域（中学校区程度から小学校区程度へ）で介護予防事業が展開できるよう、指導者の育成を行います。

## 戦略プロジェクト9

### ●スポーツ情報の提供

スポーツ情報システム（指導者、教室事業等）を活用し、地域での健康づくりを支援します。更に、自宅で一人で手軽にできる運動プログラムをインターネット等を通じて提供します。

## 目標 3

## 小中学生の新体力テストで全種目全国平均を上回ります

## 戦略プロジェクト10

### ●新体力テストの全校 実施

新体力テストの全校全種目実施を通して、児童・生徒の体力・運動能力の現状を正確に把握し、個人や各校の実状に基づきスポーツ活動を展開します。また、本人、保護者、教職員（学校）が、体力の経年変化を確認できるシステムをつくれます。

## 戦略プロジェクト11

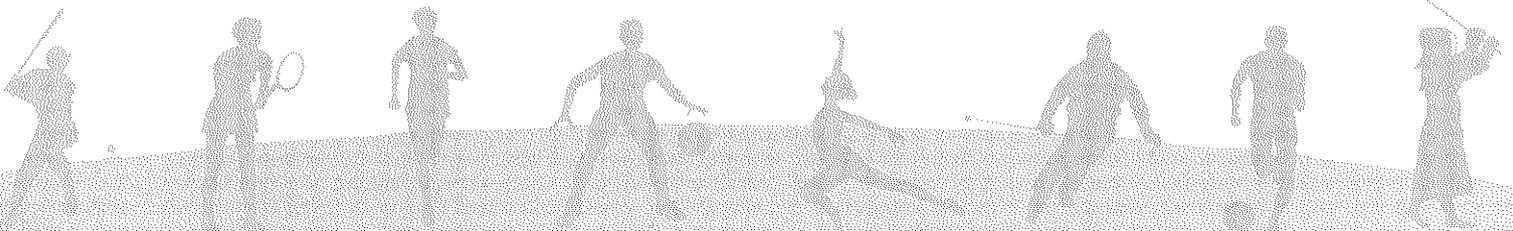
### ●小学校体育授業の充実

大学生を活用した実技指導補助者の派遣を拡大し、体育実技に関する小学校教職員への支援体制を確立します。また、体育専科教員の配置を検討します。

## 戦略プロジェクト12

### ●小学校中休みへの ボランティア派遣

保護者や地域住民、大学生などのボランティアの協力を得て、中休みに子どもと一緒に遊んだり、子どもの遊びの見守りを行うことで、子どものスポーツ・運動に親しむ機会を拡大し、子どもの外遊びへの関心を高めます。



### 戦略プロジェクト13

#### ●体力に関する意識改革

学力に比べ軽視されがちな体力について、その重要性を広く保護者に知ってもらうために、様々な機会を利用し意識改革を促すとともに、親子での運動機会を提供します。また、啓発資料の作成・配布等の広報活動を展開します。

### 戦略プロジェクト14

#### ●身近な運動遊び場づくり

放課後、休日の活動の場としての総合型地域スポーツクラブの設立・育成や、気軽にボール遊びができる場所の確保等を通して、児童・生徒の運動遊び頻度の向上と習慣化を目指します。

## 目標 4

## 競技力向上に取り組み、全市立中学校運動部に専門的指導者を配置します

### 戦略プロジェクト15

#### ●指導補助者の派遣

現行の外部指導者派遣制度及び地元大学の大学生を活用した中学校運動部活動への指導補助者派遣制度を拡大し、運動部活動の活性化を図ります。また、スポーツ団体と連携し、運動部活動のサポート体制を確立します。

### 戦略プロジェクト16

#### ●スポーツ医科学研修の実施

運動部活動の顧問教員等を対象とした、運動傷害の予防、理学療法などの実技研修や栄養学など、成長期の子どもに適切な指導が行えるよう、医科学研修を実施します。

### 戦略プロジェクト17

#### ●技術指導講習会の実施

競技経験のない種目を担当した場合にも指導を行えるよう、スポーツ団体と連携し、運動部活動の顧問教員等を対象とした技術指導講習会を実施します。

### 戦略プロジェクト18

#### ●学校向け人材情報システムの確立

人材情報システムを再構築し、中学校の運動部活動指導に適した人材情報を収集・提供します。また、各学校からの派遣依頼に応じて、適任者を紹介できるシステムを確立します。



## 戦略プロジェクト19

### ●競技力向上事業の実施

運動部活動加入生徒に対して、傷害の予防・パフォーマンスの向上を目的とした「ジュニアスポーツクリニック」を実施します。また、年代別の合同強化練習を通して一貫したジュニア選手の発掘・育成・強化を実施します。

目標  
5

## 総合型地域スポーツクラブを18区に最低1カ所以上育成します

※総合型地域スポーツクラブ…複数の種目が用意されており、子どもから高齢者まで地域住民の誰もが参加できる自主運営のクラブ

## 戦略プロジェクト20

### ●総合型地域スポーツクラブ設立への支援

総合型地域スポーツクラブの支援については、「理解（周知）」、「設立」、「運営」のそれぞれの段階に応じて、地域に身近な区役所やスポーツ団体との協力のもと、様々なサポート制度を整備実施します。地域の自立的な活動を促進し、早期に全区での設立を目指します。

## 戦略プロジェクト21

### ●助成制度の確立

公共サービスの担い手として認められる総合型地域スポーツクラブに対する、横浜市独自の助成制度（設立支援、運営支援）を整備するほか、国・民間団体等の助成金に関する情報を提供します。また、スポーツ備品の貸出しや新種目の紹介などを実施します。

## 戦略プロジェクト22

### ●地域指導者の育成

横浜市独自の人材養成講座を充実し、実技指導技能、クラブ運営能力に加え、地域活動をコーディネートできる能力を持った質の高い地域指導者の育成を図ります。また、指導者間のネットワークづくりを支援します。

## 戦略プロジェクト23

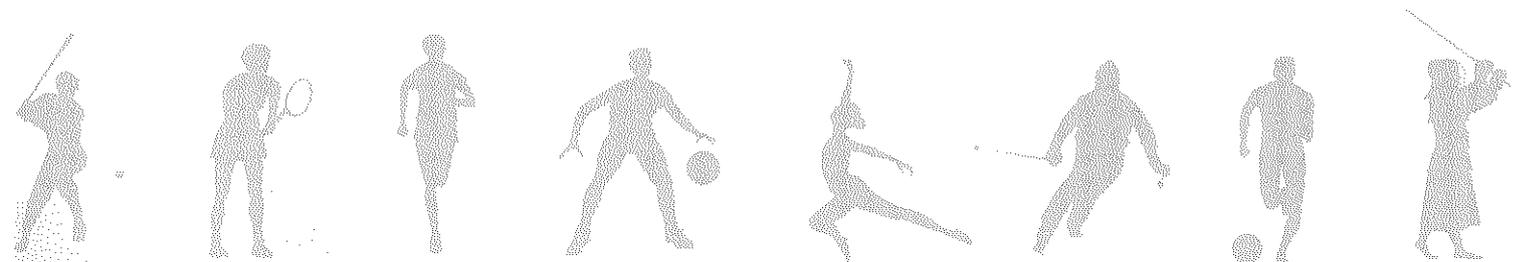
### ●地域人材情報システムの再整備

スポーツ人材情報を再構築し、総合型地域スポーツクラブの要望に応じた実技指導者を紹介できるシステムを整備します。また、広報や財務などの運動技能以外の人材情報の収集・提供に努めます。

## 戦略プロジェクト24

### ●学校開放事業との連携

地域の多くの方が気軽に参加できるスポーツや文化活動の場である学校開放事業と連携し、総合型地域スポーツクラブの設立を進めます。



# 計画の位置付けと目標年次

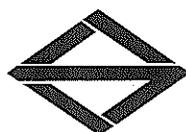
スポーツ振興基本計画  
平成12年9月13日  
文部省告示151

## 横浜市スポーツ振興基本計画 いきいきスポーツプラン2010

(計画年次 平成18年度から22年度)

- ◆国では、文部省（現文部科学省）が平成12年9月に我が国のスポーツ振興の指針となる「スポーツ振興基本計画」を策定しました。地方自治体は、スポーツ振興法において、この国の計画を参考にして、地方の実情に即したスポーツの振興に関する計画を定めることになっています。
- ◆本計画は、市としてのスポーツ振興の考え方や取組を示すとともに、生涯スポーツの振興施策を、市民協働の立場から推進するために第20期横浜市スポーツ振興審議会の答申をもとに、市民やスポーツ団体等からもご意見をいただき、策定しました。
- ◆また、横浜市では、長期ビジョンで描かれる概ね20年後の都市像等を踏まえ、その具体化に向けて中期的な総合計画として「横浜市次期中期計画」を策定します。
- ◆本計画は、「横浜市次期中期計画」に基づき、これからの横浜市のスポーツ振興の考え方や、5年後の平成22年度（2010年）を目標年度とした取組を示すものであり、「横浜市次期中期計画」で示される目標や具体的な取組などを補完するものとして位置付けます。

横浜市  
次期中期計画  
平成18年度から22年度



### 横浜市スポーツ振興基本計画 いきいきスポーツプラン2010 ～スポーツで育む地域と暮らし～

策定：平成18年7月  
発行：横浜市民活カ推進局（平成18年9月）  
〒231-0017 横浜市中区港町1丁目1番地  
TEL：045-671-3237 FAX：045-664-0669  
E-Mail：sh-sports@city.yokohama.jp  
URL：<http://www.city.yokohama.jp/me/shimin/sports/index.html>  
編集：横浜市民活カ推進局スポーツ振興部スポーツ振興課